

季節予報技術検討会（昔は長期予報？）は4、5年前までは統計則、もしくは経験則の解説で、関係者以外必要なかったのかもしれませんが、最近の報告（気象研究所の資料も含めて）では、業務以外の人々にも参考になることが多々あるように思います。この点で、「情報公開」の意味で、年度毎のトピックス（最近はclimateの取扱いが多くなっています）を「天気」などに要旨の形で掲載されることを希望します。又この時可能であれば、TRMM、GPS、衛星の雲画像などのdata assimilationによるデータの空白域の埋め合わ

せと数値モデルの格子間隔を小さくすることとの競合などについて、初歩的アイデアの提案でもあれば面白いと思います。

註：この文章は岸保名誉会員の理事長宛の手書きの手紙を、同会員の許可を得て気象学会事務局の責任でワープロ化及び若干の語句の改訂を行ったものです（文責：気象学会事務局）。

註：所属は評議員会開催当時のもの。



## 第24回極域気水圏シンポジウム開催の御案内

極地研究所では毎年極域に関わる研究をテーマとしたシンポジウムを開催しております。このうちの大気、雪氷、海洋圏の研究に関する気水圏シンポジウムを本年も開催することとなりました。

現在南極地域では、南極地域観測隊による短期間の集中研究として5か年計画で「極域大気-雪氷-海洋圏における環境変動機構に関する研究」が、長期間の観測を主目的とした「地球環境変動に伴う大気・氷床・海洋のモニタリング」が実施されております。また国内ではこれまで得られた観測データ、試料等による研究が進展しています。ドームふじ観測拠点で得られた氷床コア、大気中、雪氷中の微量成分データ等を利用した研究が進展中であります。一方北極地域ではスバルバル、グリーンランド、カナダ、シベリア等多地域に於いて、大気、雪氷、海洋に関する多岐にわたる観測が行われております。さらに次の南極地域観測隊からは新しいテーマの5か年計画「南極域からみた

地球規模環境変化の総合研究」がスタートすることとなっております。

これまでの諸観測から得られた資料の解析結果はもとより、南北両極・寒冷域を主な対象とした大気科学、雪氷学、海洋学に関する研究成果、研究展望などを議論するシンポジウムを下記の通り開催いたします。広く発表を受け付けておりますので、ご応募下さるようご案内申し上げます。

日 時：2001年11月20日（火）・21日（水）

会 場：国立極地研究所・6階講堂

申込締切：2001年9月24日（月）必着

問合せ先：国立極地研究所 和田 誠、岡崎美紀

〒173-8515 東京都板橋区加賀1-9-10

E-mail：icesamp@pmg.nipr.ac.jp

Tel：03-3962-3257・5580、Fax：03-3962-5719